

16. 明治維新と立憲国家への歩み(2)

ここから

欧米視界のため+不平等条約改正のため(だめだめ)

① 岩倉使節団

の派遣...不平等条約の改正には失敗したが、先進国の政治・産業・文化を学んだ
岩倉具視 木下孝允 伊藤博文 大久保利通 山岡久 小幡 津田梅子なども

明治初期の外交

改訂 相手は小幡(薩長中心)

・清との関係...1871年

② 日清修好 条規
を締結 (村等, 平等)

・朝鮮との関係

...武力で開国を迫る征韓論が

台頭→1875年

③ 江華島 事件がおこる

→翌年, ④ 日朝修好

条規締結 (不平等)



・ロシアとの関係...1875年

⑤ 樺太・千島交換 条約
を締結

・琉球王国...

1879年, ⑥ 琉球 藩を廃止

→⑦ 沖縄 県を設置

(琉球処分)

国民も参加させて そのために

自由民権運動...国民の自由と権利を求め、立憲政治の実現を目指す運動

・民権運動の始まり...1874年, ⑧ 板垣退助 らが民権議院設立建白書を提出

・士族の反乱...政府への不満が高まり、西日本の各地で反乱がおこった

→⑨ 西南戦争...1877年、鹿児島県の士族たちが⑩ 西郷隆盛 を中心におこす

・自由民権運動の高まり...1880年、民権派の代表たちが大阪に集まり⑪ 国会期成同盟 を結成
イギリスにならった政党政治を主張した大隈重信と君主の権限の強い憲法をつくることを主張した岩倉具

視が対立→政府は大隈重信を辞めさせ、1890年に国会を開くことを約束

・政党の成立...⑬を党首とする⑫ 自由 党、大隈重信を党首とする⑬ 立憲改進 党が成立

立憲国家の成立

・⑭内閣 制度の確立...⑮ 伊藤博文 らは君主の権限の強い⑯ ドイツ(プロイセン)・オーストリ

アなどで立憲政治を学ぶ

→1885年、⑭制度をつくり、⑮は初代の内閣総理大臣になる

・⑰ 大日本帝国 憲法...⑮が中心となつてつくった憲法案を枢密院で審議

→1889年、⑱ 天皇 が国民にあたえるという形で発布

⑲は国の元首として、軍隊を統率し、外国と条約を結ぶなど、大きな権限をもつ

言論・集会・出版・結社・信仰の自由は⑲法律 の範囲内で認められた

⑳ 帝国 議会...皇族・華族などからなる㉑ 貴族院 と、選挙で選ばれた議員からなる㉒ 衆議院

・㉒議員の選挙権...直接国税を㉓ 15 円以上納める満㉔ 25 歳以上の㉕ 男子 に限る

ここから

② 征韓論 (=武力で、韓国を朝鮮を開国せよ(あるいは日本の植民地により))

征韓論派

VS

内治論派

使節団
派の
とき政府で
おるはん
してたり

西郷隆盛
板垣退助
江藤新平 など

岩倉使節団たち

海外みてみて
優先すべきは日本の改革

→ 1890 明治六年の政変で
征韓論派が下野(内閣を去る)

ここまで

1890

教育勅語

忠君愛国の

道徳を説く、

教育の柱に

欽定憲法